

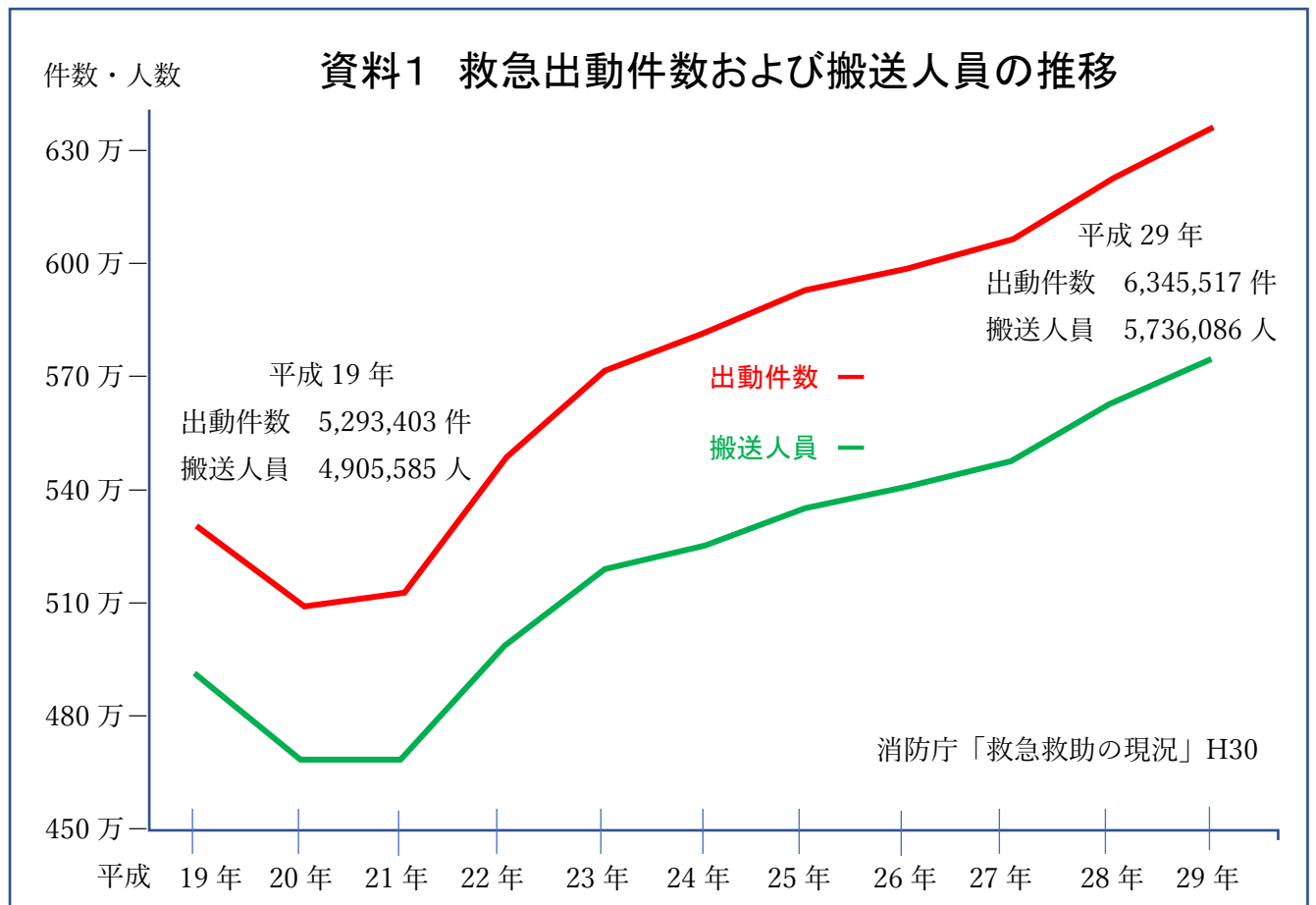
「簡潔な意見」の積み重ねが長い作文になる。1つのことを薄めて長くするのではない。			
教案番号	06	対 象	小学校高学年～中学生
分 野	心理・経理	タイトル	救急車の利用増加とその問題
時 間	[1]～[3]と[4]～[7]の2回に分け、3～6人で1回40分前後		
指導概要	①救急車の利用状況の資料を見て、気づいたことを簡潔に書く。 ②救急車を呼んだ理由の資料を見て、気づいたことを簡潔に書く。 ③病気・ケガの程度の資料を見て軽症が多いことに気づく。 ④軽症で救急車を使わせないためにはどうしたらよいかを考える。 ⑤有料化できない理由を考えるために、利用者の年齢構成を見してみる。 ⑥高齢者が救急車を利用する割合が多い理由を考える。 ⑦上記の作業を経て、救急車の利用増加と有料化が進まない理由を説明する文を書く。		

【1】授業の流れ

具体的活動内容	教材・教具
1. 事象把握 ①資料[1]を見て、救急出動・搬送人員が増えてきたことに気づく。 ②資料[2]を見て、急病の利用が増えてきたことに気づく。 ③資料[3]を見て、軽症の利用者が半数を占めていることに気づく。 ④軽症者の利用が多いので、自分ならどのような対策をとるかを考える。	プリント 1 2 3 4
2. 課題把握 ①なぜ有料化されないのか理由を考えるために、資料[5]利用者の年齢区分を見て高齢者の利用が多いことに気づく。 ②高齢者がすぐに救急車を利用する理由を考える。 ＊ヒントとして「高齢者の人口の割合のグラフ」や「高齢者の一人暮らしのグラフ」を用意しておく。	プリント 5 6
3. 作文 指示に従って、救急車の利用増加と有料化が進まない理由を説明する文を書く。 時間が余ったら、令和2年に救急出動が減ったことを伝え、その理由を考えさせる。	原稿用紙 令和2年資料

【2】次ページより教材例を提示（子ども用に続き、指導者用を掲載）

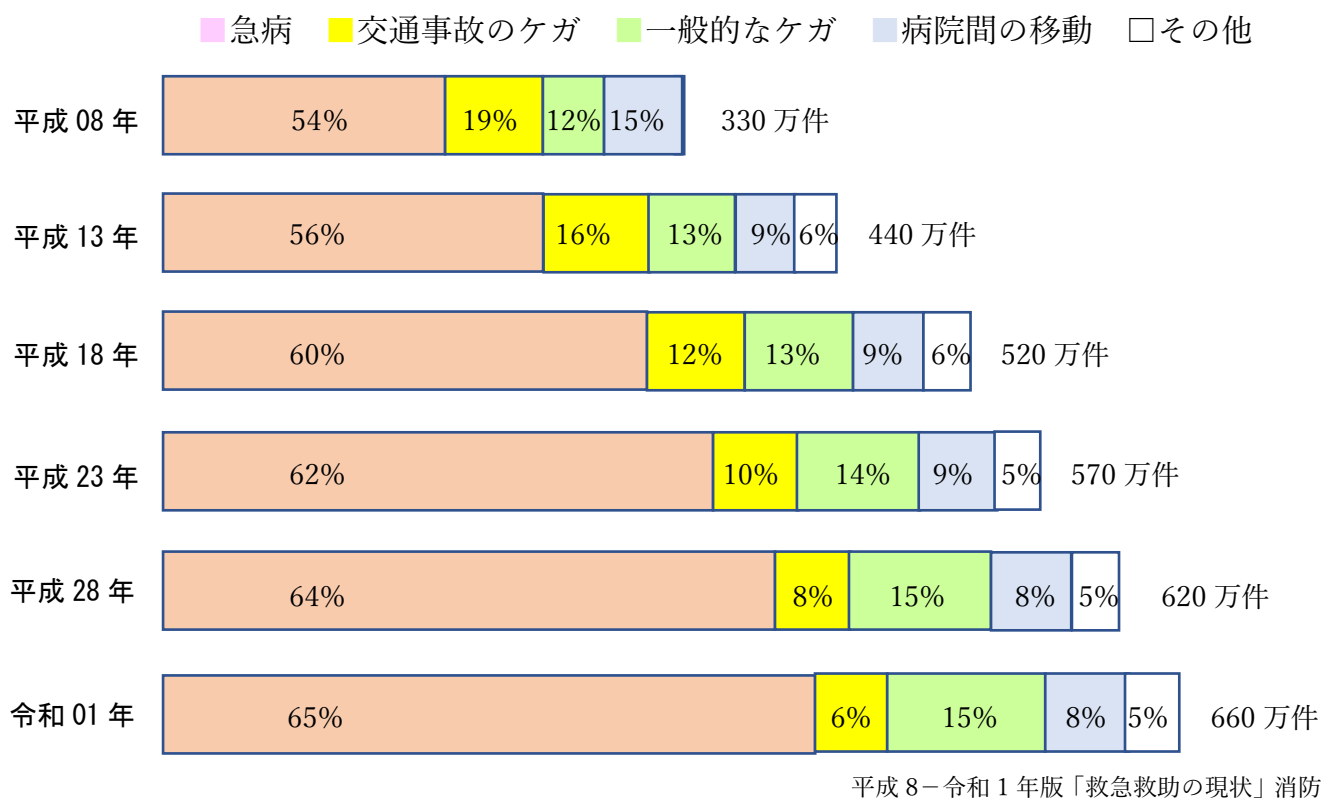
- 1 下のグラフを見て、気づいたこと、気がかりなことを手短かに書きましょう。



2 次に、どうして救急車を呼んだのか、その理由を調べてみました。

気づいたこと、気になることを簡潔に書きましょう。

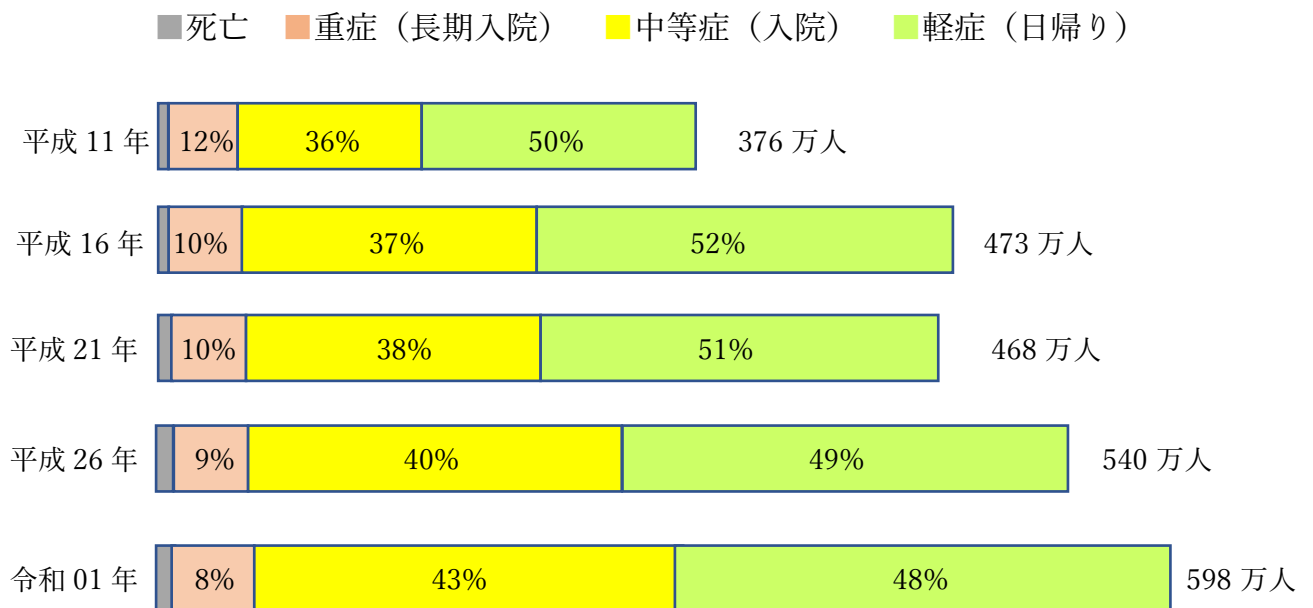
資料2 事故種別の搬送件数と構成比の5年ごとの推移



3 どの程度の病気やケガで救急車を呼んだのか調べてみました。

気づいたことを簡潔に書きましょう。

資料3 傷病程度別の搬送人数と構成比の5年ごとの推移



平成 11 年－令和 1 年版「救急救助の現状」消防庁

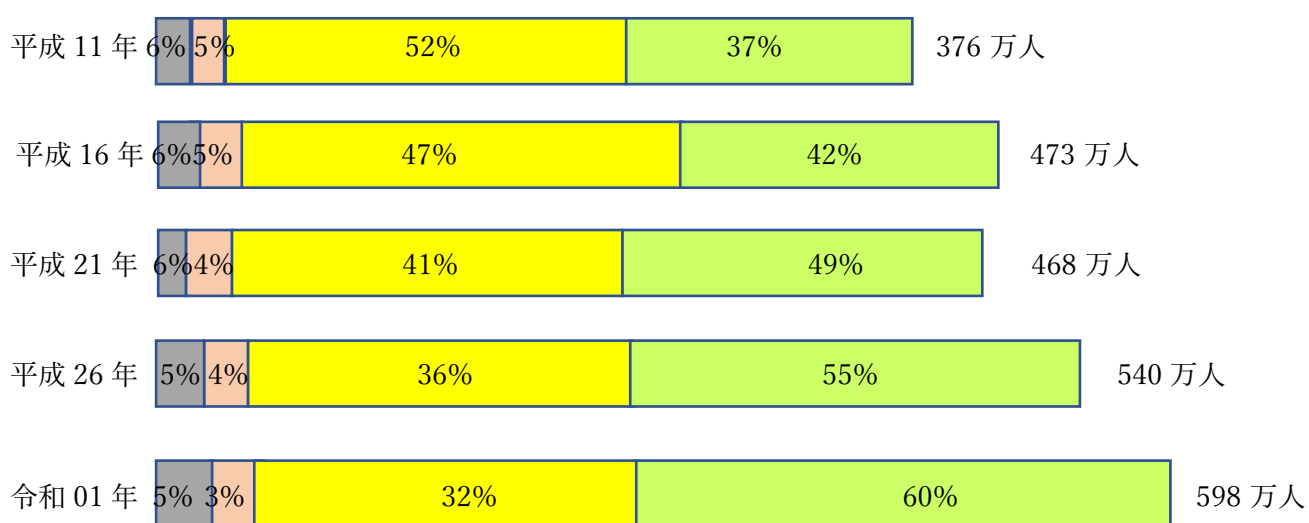
[illegible]

5 問題になっているにもかかわらず、救急車は有料化されていません。今度はその理由を探っていきましょう。

まず、救急車を利用している年齢を調べてみました。

資料4 年齢区分別の搬送人数と構成比の5年ごとの推移

■乳幼児（0～5歳） ■少年（6～19歳） ■成人（20～64歳） ■高齢者（65歳～）



平成 11 年－令和 1 年版「救急救助の現状」消防庁

気づいたことを簡潔に書きましょう。

6 高齢者が救急車を利用する訳を考えてみましょう。

[illegible]

7 救急車を利用する人が増えた現状と有料化できない理由について文にまとめましょう。

文は次のようにまとめましょう。

1 ^{もと}を基に、救急車の利用が増えてきたことを書く。

2 を基に、増えた理由を書く。

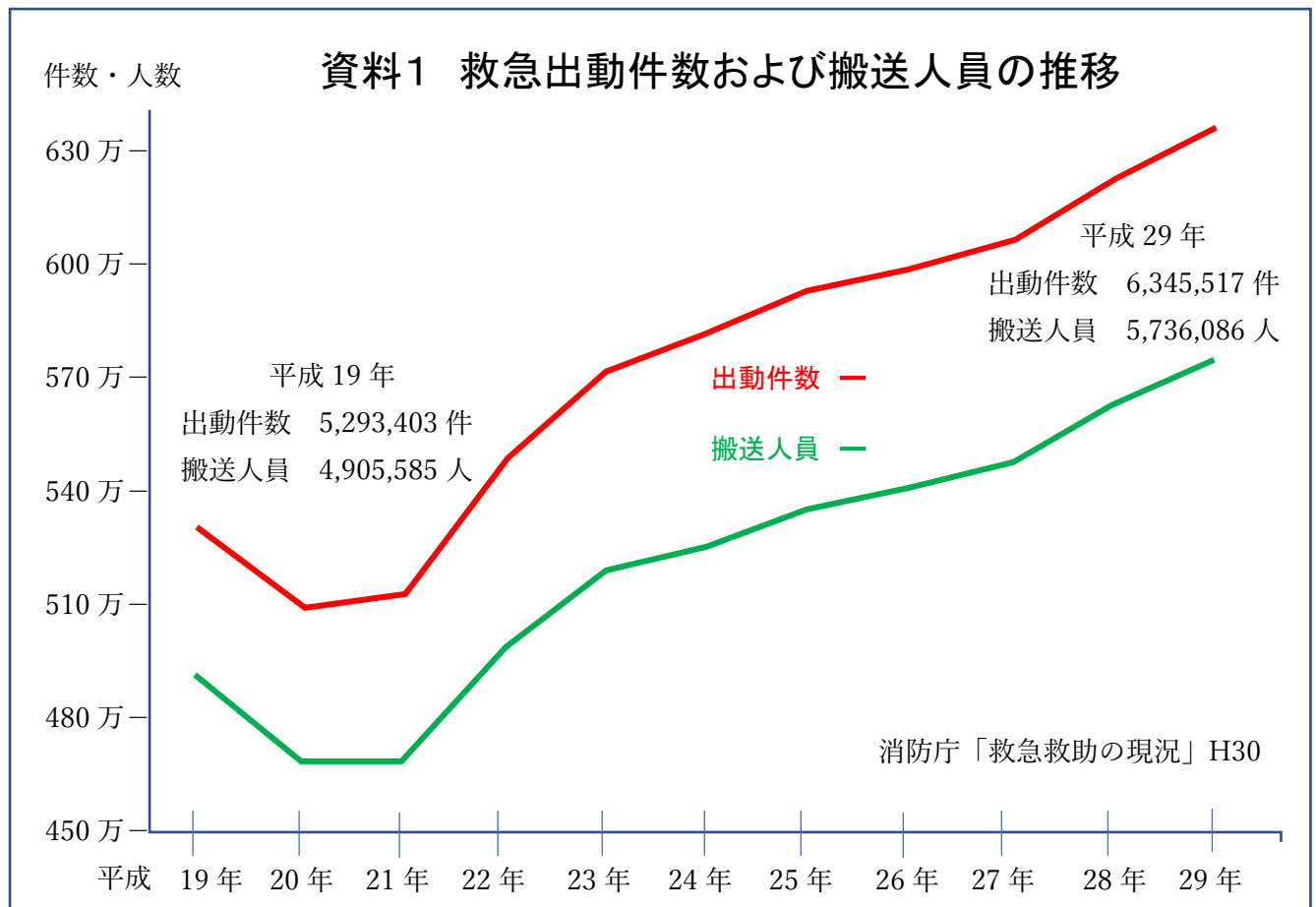
3 を基に、軽症者の割合について書く。

5 を基に、高齢者の割合について書く。

6 を基に、なぜ高齢者の利用が多いかを書く。

最後に、有料化できない理由と、今後どうしていけばよいかに
ついて自分の考えを書く。

- 1 下のグラフを見て、気づいたこと、気がかりなことを手短かに書きましょう。



①搬送件数・人員とも（一時期減ったが）年々増えてきている。

10 年で、搬送件数は約 20% 増えた。搬送人員は約 17% 増えた。

平成 20 年・21 年に減少したが、消防庁の調べによると、その原因として

・適正利用の広報活動・頻回利用者への個別指導と毅然たる対応などを

挙げている。しかし、それも空しく 22 年から再び増加傾向を辿っている。

②出動件数に比べ、搬送人員が少ない（平成 19 年で 8% 少ない）ということは、救急車を呼んだけど、利用しなかった人が大勢いるということではないか。

⇒日本医科大学横田教授の調査によると、2015 年（H27）の搬送者のうち 10% が不搬送で、ほとんどが頻回要請者（何度も要請する人）に対する搬送拒否だった。

③このまま増えて行ったら何か問題が起きるのではないか。

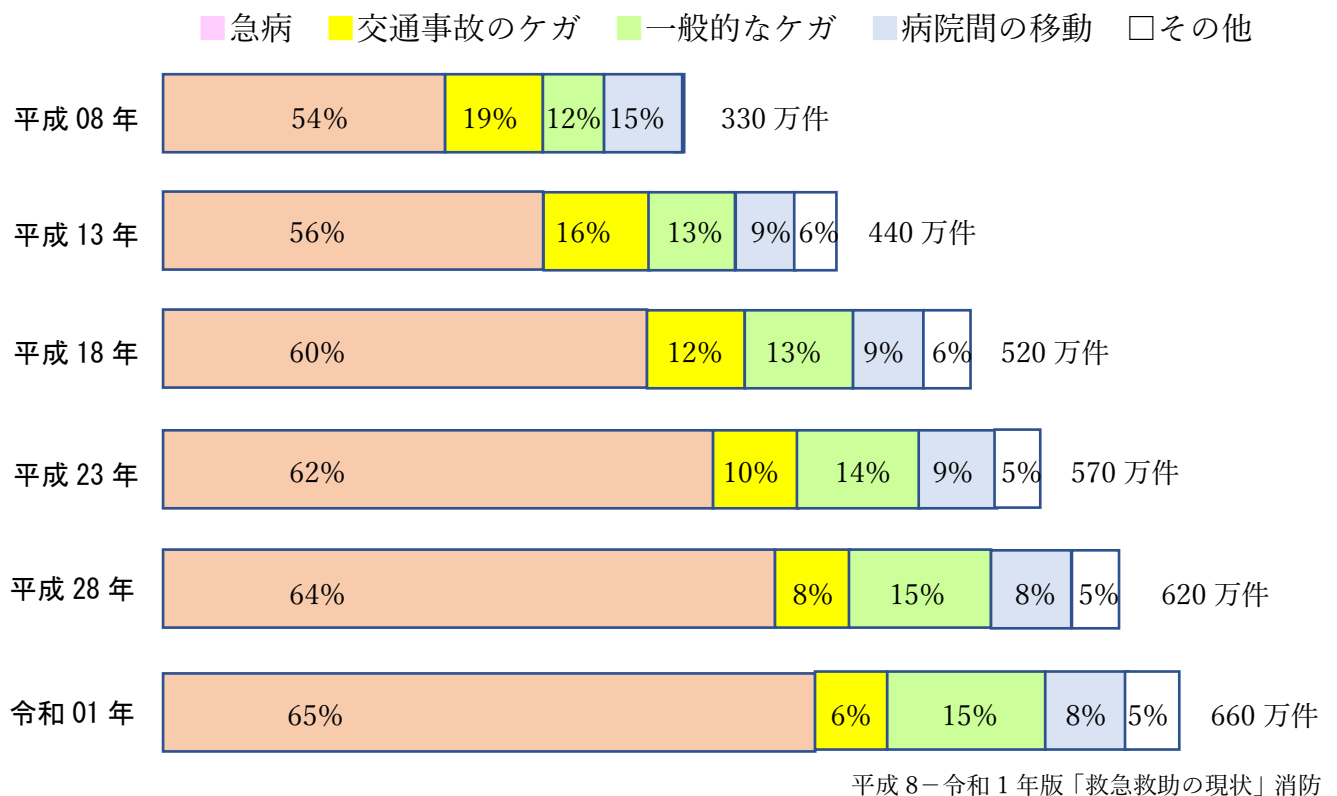
・救急車を呼んでもすぐに来なくなる。（H13 年に到着まで約 6 分かかっていたものが、H26 年には約 9 分に延びている。）

・お金がかかって困る。（1 回で 45,000 円かかると言われている。）

2 次に、どうして救急車を呼んだのか、その理由を調べてみました。

気づいたこと、気になることを簡潔に書きましょう。

資料2 事故種別の搬送件数と構成比の5年ごとの推移



①急病で呼ぶ人が年々増えている。(20 年で 10%も増えた)

⇒医療が発達しているのに病人が増えるのは納得できない。

②交通事故のケガは 19%から 8%と、約半分に減っている。

⇒車を使う人が減ったのか。車の安全対策がなされたのか。

③一般的なケガは少し増えているが、その他はあまり変わっていない。

* 「その他」に含まれる事例

医師の診断がなく分類ができないもの

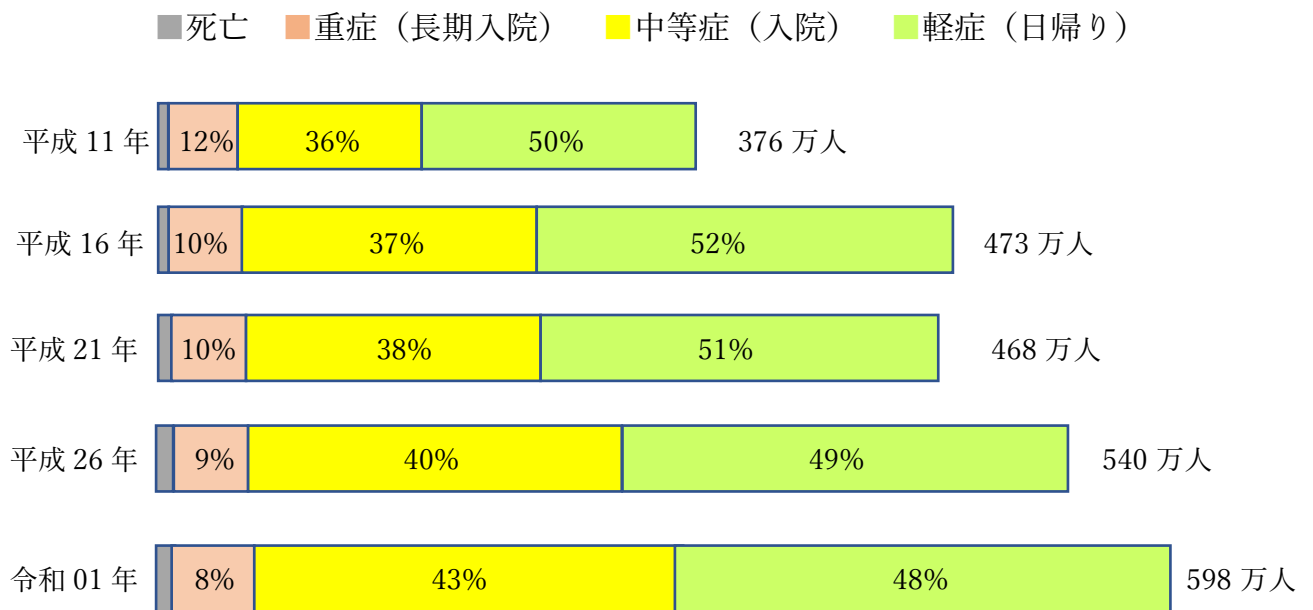
患者ではなく急いで医師を他の病院に移動させるのに使った

人ではなく救急で医療用機材を運んだ

3 どの程度の病気やケガで救急車を呼んだのか調べてみました。

気づいたことを簡潔に書きましょう。

資料3 傷病程度別の搬送人数と構成比の5年ごとの推移



平成 11 年－令和 1 年版「救急救助の現状」消防庁

- ①中等症や軽症の人の占める割合が多く、全体の 90%を占めている。
- ②傷病の程度の割合は、あまり変わらないが、人数が増えている。
- ③軽症の人がこんなに多いのでは、本当に困っている人が呼んでもすぐに来てくれないのではないか。
- ④なぜ、こんなに軽症の人が多いのか。

- 4 多くの人が軽症で救急車を呼んでいる現状を見て、平成 25 年ごろに、どうしたらよいかを議論が盛んになりました。あなたならどんな方法を提案しますか。
-

【1】初めは自由に考えて記述させる。

【2】その後、そのアイデアに問題がないか意見を出し合い修正させる。

①救急車を有料化すればよい。

⇒お金がない人が呼べなくなる。

タクシー代より高い程度に設定すればいい。

本当に中等症以上の場合は無料にすればいい。

*海外の事例

ニューヨーク 有料 基本料金 25,000 円 1 マイルにつき 600 円加算

ロンドン 無料

フランクフルト 有料 22,000 円～73,000 円

パリ 有料 30 分あたり 23,000 円

シドニー 有料 11,000 円 1km につき 300 円加算

ローマ 無料

(1996 年 AIU 保険会社の調査による)

②十分に様子を説明させてから出動する。

⇒もし、断ったあとで重篤なことになったら誰が責任を負うか。

有料・無料の線引きが難しい。

利用者とのトラブルが発生する。

お金を払ったのだから早くしろ！軽症でも運べ！この病院は嫌だ、他へ行け。

③医師による相談窓口を作って、その判断で出動する。

⇒説明が不十分で重篤な事態になってしまったら誰が責任を負うか。

*日本では平成 30 年より #7119 に電話をすると、医師・看護師・専門家が相談に乗るシステムが開始された。

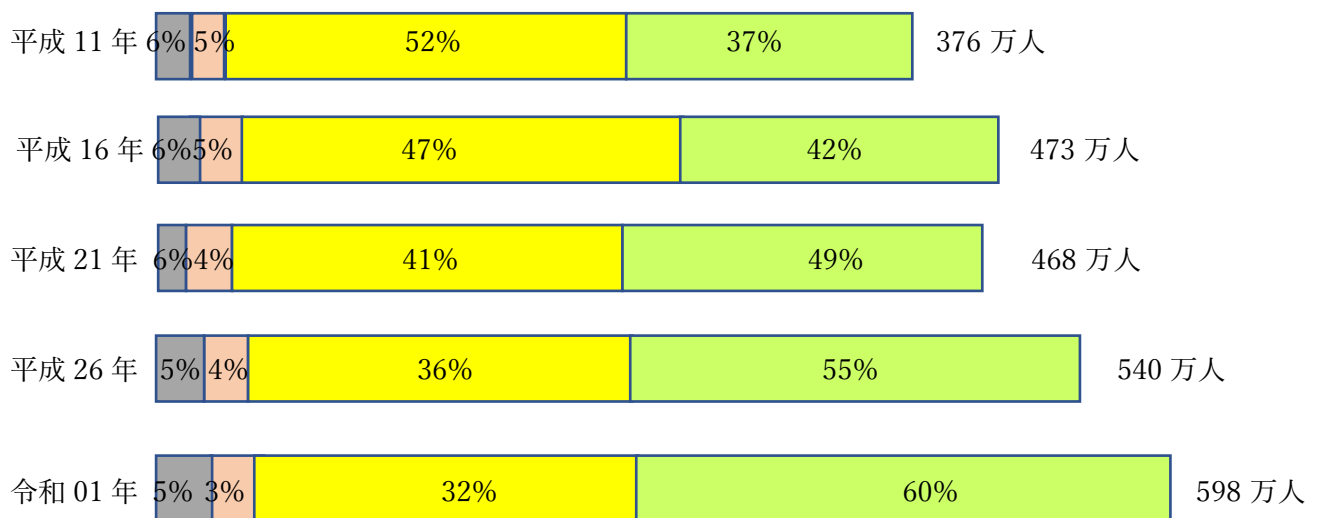
*あとで問題にするが、この制度と利用者に高齢者が多く、収入の点からも有料化が難しく、無料のままなのではないか。

5 問題になっているにもかかわらず、救急車は有料化されていません。今度はその理由を探っていきましょう。

まず、救急車を利用している年齢を調べてみました。

資料4 年齢区分別の搬送人数と構成比の5年ごとの推移

■乳幼児（0～5歳） ■少年（6～19歳） ■成人（20～64歳） ■高齢者（65歳～）



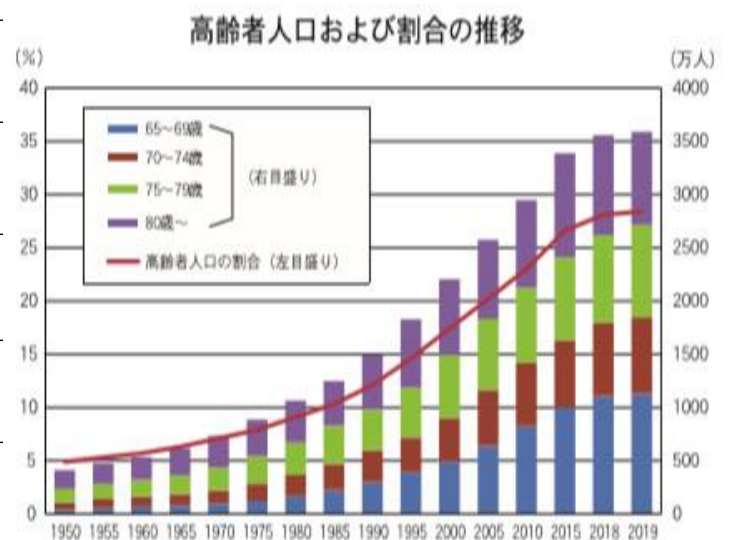
平成 11 年－令和 1 年版「救急救助の現状」消防庁

かんけつ
気づいたことを簡潔に書きましょう。

上記資料より

- ①高齢者の占める割合が年々増えている。
- ②高齢者は平成 11 年が 376 万人の 37%だから計算すると、約 139 万人だった。それが令和元年度には 598 万人の 60%だから計算すると約 359 万人となり、220 万人も増えた。
- ③成人の人数はほとんど変わらないが、高齢者が増えた分、割合は減っている。

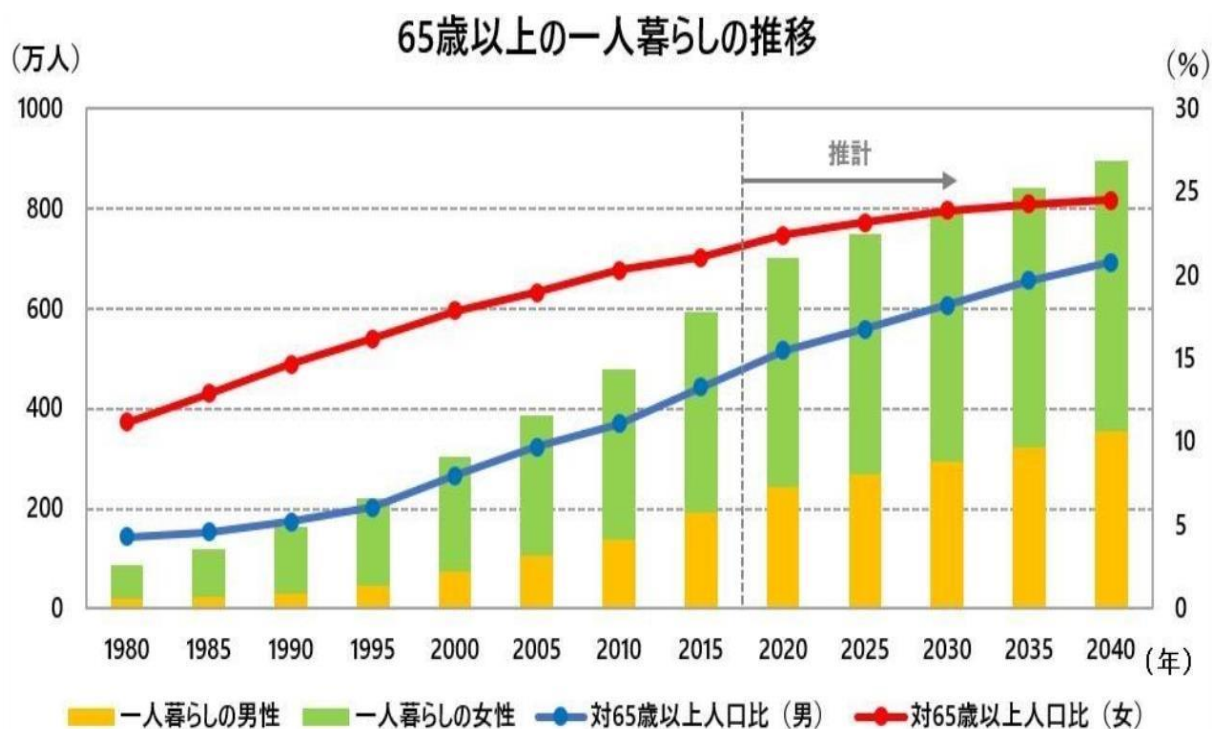
* 参考資料として右のグラフを提示して高齢者がいかに増えているかを示してもよい。



Assist-Biz より

6 高齢者が救急車を利用する訳を考えてみましょう。

- ①年をとるということは、それだけ病気になりやすいからではないか。
- ②高齢者が増えているから、それだけ救急車を利用する人も増えているのではないか。
- ③体が弱って少しの病気でも自分では病院に行けないのではないか。
- ④独り暮らしの高齢者が増えているのではないか。（これは推測しにくいので採り上げなくてもよい）
独り暮らしだと家族に病院へ連れて行ってもらえないからだ。
高齢者二人（夫婦）暮らしでも、一人では病院に連れていけないからではないか。
「独り暮らし」という推察が出なかった場合、下記のグラフを見せると原因に気づく子もいる。



- ⑤年を取ると不安になってすぐに救急車を呼びたくなるのではないか。
- ⑥年を取ると仕事が無くなり、お金がないからタクシーを呼べないのではないか。
*収入の面も考えさせたい。

7 救急車を利用する人が増えた現状と有料化できない理由について文にまとめましょう。

文は次のようにまとめましょう。

1 ^{もと}を基に、救急車の利用が増えてきたことを書く。

2 を基に、増えた理由を書く。

3 を基に、軽症者の割合について書く。

5 を基に、高齢者の割合について書く。

6 を基に、なぜ高齢者の利用が多いかを書く。

最後に、有料化できない理由と、今後どうしていけばよいかに
ついて自分の考えを書く。

時間が余ったら、令和2年に救急出動・搬送人員ともに減少したグラフを見せ、理由を考えさせてもよい。

総務省消防庁では
コロナの感染拡大
によって、
①衛生意識が向上
②不要不急の外出
自粛で車での
外出も減り、
交通事故の減少
に繋がった
などと考えている。

図1 救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移

